

## ローマ人への手紙 6:1-14 キリストにあって生かされている

ローマ人への手紙 6:1-14 を開いてください。キリストの復活を覚える日曜日に、バプテスマという聖礼典を祝うこと以上にふさわしい礼拝の仕方は他にありません。この、水の中に浸され、そこから引き上げられるという儀式は、キリストが再び来られるその日まで、全ての新しくキリストに従う者たちに行うよう、神が命じられたことです。この命令は、[マタイによる福音書 28:19](#)にある福音のメッセージと結び付けられているものです。「19 ですから、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。父、子、聖霊の名において彼らにバプテスマを授け」イエスの弟子になること、イエスに従う者となることは、この福音を象徴するバプテスマに従うことを意味します。イエスがご自分を十字架の死にゆだね、死からよみがえったことによって死に打ち勝たれたのと同じようにです。救いにより、私たちはキリストの死と復活に永遠に結び合わされます。ですから、キリストの死を象徴する行為に従うことによって、その信仰を公に表すのです。水の中に入ることでキリストの死を、水から出ることでキリストの復活を表します。ですが、この浸礼のバプテスマが示すものはキリストの死と復活だけにとどまらず、キリストにより可能となった私たちの死と復活をも表わします。今日の箇所であるローマ人への手紙 6 章で、イエスの死と復活によってもたらされた、私たちの死と復活を見ることができます。私たちは罪に対して死んでいますが、キリストに在って生かされているのです。

ローマ人への手紙 6 章では、まず、**私たちがキリスト共に罪に対して死んだのだという事実**に焦点を当てています。では、ローマ人への手紙 6 章最初の 4 節を読み、私たちがキリストと共に罪に対して死んだという真理を見ていきましょう。「**それでは、どのように言うべきでしょうか。恵みが増し加わるために、私たちは罪にとどまるべきでしょうか。2 決してそんなことはありません。罪に対して死んだ私たちが、どうしてなおも罪のうちに生きていられるでしょうか。3 それとも、あなたがたは知らないのですか。キリスト・イエスにつくバプテスマを受けた私たちはみな、その死にあずかるバプテスマを受けたではありませんか。4 私たちは、キリストの死にあずかるバプテスマによって、キリストとともに葬られたのです。それは、ちょうどキリストが御父の栄光によって死者の中からよみがえられたように、私たちも、新しいいのちに歩むためです。」**6 章が「それでは、どのように言うべきでしょうか」と始まっていることに注目してください。これは、その前に語られていた内容と結び付けて読むよう意図されていることが明らかです。5 章は最初の人アダムと、完全な人イエスとの対比で終わっています。アダムの不従順が全ての人に罪をもたらしましたが、イエスの従順が全ての人への神の恵みを可能にしました。ローマ人への手紙 5:19 は「19 すなわち、ちょうど一人の人の不従順によって多くの人が罪人とされたのと同様に、一人の従順によって多くの人が義人とされるのです。」と述べています。ローマ人への手紙 5 章で恵みについて語り、この書簡を書いた使徒パウロは「もっと恵みが与えられるために、もっと罪を犯した方が良いでしょうか」と問います。**答えは断固として否です。「決してそんなことはありません。」**では、なぜそのように考えることは間違えなのでしょう。それは、私たちがキリストに在るのなら、罪に対して死んだ者であるからです。2 節は「**罪に対して死んだ私たちが、どうしてなおも罪のうちに生きていられるでしょうか。」と問います。**罪が私たちのうちで死んだものとなっていることを、どのように理解するかの鍵となるのは私たちのキリストとの関係です。ここで私たちのキリストとの関係を説明するためにパウロがどのような言葉を使っているのかに注目してください。バプテスマが象徴するものを用いて説明しています。私たちは単に肉体的にバプテスマを受けただけではありません。水の中に入ることによって、私たちがキリストの死に与るという霊的現実が示されます。私たちが実際に肉体的に死ぬのではなく、私たちの内にある罪の性質が打ち砕かれるのです。私たちが真に「罪に対して死んだ」のです。

もしそれが事実なら、私たちは絶えず矛盾の中で生きていることになります。なぜなら、キリストのバプテスマに与り、主であり救い主としてキリストに従う者でありながら、私たちはなお罪を犯すからです。従順に歩みたいと願いつつも、実際には従順にいられない現実との間で、私たちの内には常に戦いがあります。ジェリー・ブリッジズは「Discipline of Grace (恵みの鍛

鍊)」の中で、このことについてとても的確に説明しています。彼によれば、それはイエスとアダムの両方が代表者として存在しているという考え方にあると言います。それは、ローマ人への手紙5章でアダムの一つの不従順と一つの罪が、イエスの従順と対比されていることにも合致します。聖書の教えをまとめるなら、アダムは人類を代表する代表者として立てられていた、ということです。アダムが罪を犯したとき、私たちすべての代表として罪を犯したので、その結果、罪の呪いが全人類に及びました。アダムの罪は私たち一人ひとりに転嫁され、与えられました。ですが、イエスもまた私たちの代表となられたので、私たちがイエスを信じる時、その義(罪のなさ)が私たちに転嫁され、与えられるのです。ブリッジズは、それらはいわば法的な取引であると指摘しています。つまり、私たちはアダムにあって罪の責めの中にあり、キリストに在っては罪からの法的赦しの中にあるのです。これが意味することは、私たちがもはや罪の支配の下にはないということです。また、私たちの罪に対する反応が変えられたということでもあります。私たちはもはや罪に仕える性質を持つ者ではないのですから、罪を犯すとき、それは私たちに与えられているキリストの性質に相反することとなり、ブリッジズが書いているとおり罪は「喜びをもたらす快樂」ではなく重荷となるのです。ですから、私たちが罪をまったく犯さなくなったということではなく、新しい性質に相反するゆえに罪を憎むようになるということです。そして、神がどのような方であるか、またイエス・キリストが私たちのために何をしてくださったのかを理解すればするほどに、ますます自分の罪を憎むようになります。コリント人への手紙第二3:18は「18 私たちはみな、覆いを取り除かれた顔に、鏡のように主の栄光を映しつつ、栄光から栄光へと、主と同じかたちに姿を変えられていきます。これはまさに、御霊なる主の働きによるのです。」キリストと共にあることにより、聖霊が私たちをよりキリストに似た者へと変えてくださるとき、私たちの新しいいのちは、キリストの栄光を表すようになります。4節は、この神に栄光を帰すこととのつながりを示しています。「ちょうどキリストが御父の栄光によって死者の中からよみがえられたように、私たちも、新しいいのちに歩むためです。」

新しいいのちが神に栄光を帰すということは、この箇所を示されている、私たちがキリストの内において神に生きる、という二つ目の真実につながります。死んでいることの反対は生きていることです。ローマ人への手紙6章を読み進めると、私たちはキリストの死に結ばれているだけでなく、その復活にも結ばれていることが分かります。5-11節を読みましょう。「5 私たちがキリストの死と同じようになって、キリストと一つになっているなら、キリストの復活とも同じようになるからです。6 私たちは知っています。私たちの古い人がキリストとともに十字架につけられたのは、罪のからだ滅ぼされて、私たちがもはや罪の奴隷でなくなるためです。7 死んだ者は、罪から解放されているのです。8 私たちがキリストとともに死んだのなら、キリストとともに生きることにもなる、と私たちは信じています。9 私たちは知っています。キリストは死者の中からよみがえって、もはや死ぬことはありません。死はもはやキリストを支配しないのです。10 なぜなら、キリストが死なれたのは、ただ一度罪に対して死なれたのであり、キリストが生きておられるのは、神に対して生きておられるのだからです。11 同じように、あなたがたもキリスト・イエスにあって、自分は罪に対して死んだ者であり、神に対して生きている者だと、認めなさい。」私たちは今や罪に対して死んだので、罪が私たちを定義することはありません。代わりに、私たちには新しいいのち、キリストに在る復活のいのちが与えられています。11節では、この新しいいのちを「キリスト・イエスにあって、神に対して生きている」と説明しています。キリストの内にあるということは、先ほども触れたように、キリストの義をまとうということです。つまり、私たちの人生が、そのキリストとの関係によって定義されるということです。私たちは単にキリストと共にいるだけではなく、キリストの内にいるのです。また、キリストは聖霊を通して私たちの内に住まわれます。この真理をローマ人への手紙8:9に見ることができます。「9 しかし、もし神の御霊があなたがたのうちに住んでおられるなら、あなたがたは肉のうちにではなく、御霊のうちにいます。もし、キリストの御霊を持っていない人がいれば、その人はキリストのものではありません。」聖霊、つまりキリストの御霊が私たちの内に住まれ、私たちもキリストの内に生きています。言い換えれば、私たちの人生すべてがキリストに在る自分というアイデンティティに含まれているのです。多くの人が、自分の人生

のあらゆる部分をそれぞれ切り離して考えたがります。家庭は仕事とは切り離して。仕事は家庭とは切り離して。教会は家庭とは切り離して。教会は仕事とは切り離して。趣味や子どもの活動さえ、他にやらなくてはならないこととは異なる世界にあるかのように考えます。それらの境界線が交わることはありません。日曜日に礼拝を守りながらも、イエスは個人的なものと考え、人生のその他の部分においてイエスを認めずに生きることができます。ですが、そのような生き方を聖書は認めていません。私たちの人生のすべては、私たちがキリストの内にあり、キリストが私たちの内におられるという、このキリストと一つであると言う関係によって定義されるのです。

これこそが罪に対する答えです。キリストの復活を通して、私たちの人生を見るということですが、8-9節には「8 私たちがキリストとともに死んだのなら、キリストとともに生きることにもなる、と私たちは信じています。9 私たちは知っています。キリストは死者の中からよみがえって、もはや死ぬことはありません。死はもはやキリストを支配しないのです。」とあります。イエスは一度だけ死を経験されなければなりません。死からよみがえられたとき、もう二度と死に直面することはありませんでした。キリストの死も、キリストの復活も現実で、私たちは真にその復活に与っているのです。もちろん、キリストが再臨されない限り、私たちも肉体の死を経験します。ですが、私たちに永遠の死をもたらす内なる部分、私たちの罪の性質は、すでに死んでいるのです。キリストの義の内に生きていますので、永遠を恐れる必要はないのです。ですから、先ほど賛美したように「生きるにも死ぬにも希望はキリスト」と歌うことができます。問題は、死んだはずの部分、私たちがもう一度生き返らせようとしてしまうことです。私たちは、自分の人生を支配し、罪深い欲望を満たそうとする、死んだはずの部分を再び生かしたいと望んでしまいます。そこで、キリストに在るいのちを満たし、み言葉と祈りと教会生活を通してそのいのちを強めるのではなく、そうしたものをおろそかにして肉の欲の方を満たし始めてしまいます。ですが、クリスチャンにとって、それは死んだ者を生き返らせようとするようなものです。それは、もはや自分ではないものを満たすようなことから、たとえ一時的な快樂が得られたとしても、最終的には罪悪感と恥をもたらします。なぜ罪を犯し続けてしまうかという、もう罪を犯し続けなくてもよいという現実の中に私たちが生きていないからです。罪の性質が死んだとみなしていないために、ヨハネの手紙第一 2:16で「肉の欲、目の欲、暮らし向きの自慢」と呼ばれているこの世のもので、満たし続けてしまうのです。ですから、11節で命じられているように「キリスト・イエスにあって、自分は罪に対して死んだ者であり、神に対して生きている者だと、認め」なくてはなりません。

この聖書箇所では、私たちが罪に対して死んだ者であり、神に対して生きている者であることを示した上で、最後に、キリストを通して神に対して生きることとは何を意味するのかを語っています。12-14節を読みましょう。「12 ですから、あなたがたの死ぬべきからだを罪に支配させて、からだの欲望に従ってはいけません。13 また、あなたがたの手足を不義の道具として罪に献げてはいけません。むしろ、死者の中から生かされた者としてあなたがた自身を神に献げ、また、あなたがたの手足を義の道具として神に献げなさい。14 罪があなたがたを支配することはないからです。あなたがたは律法の下ではなく、恵みの下にあるのです。」これが復活のいのちです。恵みの生活です。私たちが生きようを与えられた人生です。復活のイエスに在る新しいいのちゆえに、私たちの人生が現わすべき栄光をほんの少しでも見ることができたら、自分の罪の性質がどんなに死んだものであるか、罪の力からどれほどまでに解放されているかを見ることができたら、その罪に対して「ノー」と言えるはずですが。罪は既に敗北しており、私たちはその現実にふさわしい生き方でできるはずなのです。どうすれば罪に勝利した生き方ができるのでしょうか。罪から自分を完全に切り離すのです。誘惑にもあそばされてはなりません。何を見るか、何を聞くか、何に関わるかに気を配り、自分の身を罪に従わせないようにしなければなりません。これをヨブ記 31:1にあるヨブの模範に見ることができます。そこには「私は自分の目と契約を結んだ。どうしておとめに目を留められるだろうか。」とあります。ヨブは自分の目を情欲のために用いることはしないと決意しました。もしかしたら、今日同じような決心を新た

に、あるいは再びする必要があり方がおられるかも知れません。あるいは、ある罪から身を守るために、別の決心をする必要があると言う方がおられるかも知れません。特定の人たちとの付き合いをやめるべきだという方もおられるかも知れません。ですが、単に何かをやめるだけの問題ではありません。何をすることもまた大切です。**私たちは自分の手足を義の道具として神に捧げるのです。**何かをやめるとき、大抵それを別のものに置き換える必要があります。そうしないと、やめたかったことに結局戻ってしまうからです。この何かを手放す代わりに何かを得るというのは、聖書的カウンセリングの基本的な考え方であり、他の人が変わることを助けたり、自分を変えるための方法でもあります。つまり、罪につながることをするのをやめ、義を生み出すことを行うのです。エペソ人への手紙 4:22-24 では、この過程を次のように記しています。「その教えとは、あなたがたの以前の生活について言えば、人を欺く情欲によって腐敗していく古い人を、あなたがたが脱ぎ捨てること」そして 24 節、「24 真理に基づく義と聖をもって、神にかたどり造られた新しい人を着ることでした。」私たちのからだは人生は、神ご自身の栄光のため、神が用いてくださる義の道具であるべきです。神は私たちに何を求めておられるのでしょうか。簡単に言えば、私たち自身の栄光ではなく、神の栄光を求めることです。そうすれば、神が私たちを通して成し遂げたいと思っておられる義や良いことが何であるかを示してくださいます。そのような願いが私たちの心の中で育っていくよう、心を良く肥えた土壌とするためにできる具体的なことがあります。み言葉にとどまり、み言葉に従うこと。教会にとどまり、教会を愛すること。祈りにとどまり、み言葉の声に耳を傾けること。人を愛し、キリストを分かち合うこと。神の御心だと分かっているこうしたことに忠実であれば、神はご自分に最も栄光を帰し、私たちにとっても最も益となるような、一人一人の人生に対する具体的な御心へと私たちを導いてくださいます。その一つ一つを通して、私たちは自分の人生における神の恵みと、その恵みに対する私たちの必要を、より深く知るようになります。神の御言葉によって自分の罪を示され、聖霊によってその罪を悟り続けることで、恵みについての理解とその必要性において成長していくのです。キリストのからだである教会に仕える中で、自分の力では失敗してしまうものの、神の恵みにより仕えるための賜物が与えられていることを見るようになります。周りにいる人たちを愛し、キリストを伝えようとしますが、救いは私たちの働きによるものではなく、神の業であることを認めるとき、ますます祈り、私たちの弱々しい働きを神がご自分の栄光のために用いてくださるようにと、その恵みにより頼むようになります。イエスの復活がそれを真に可能なものとしてくださったのだという真理に私たちの目が開かれるとき、これらのことが起こるのです。**それは 14 節で「罪があなたがたを支配することはないからです。あなたがたは律法の下ではなく、恵みの下にあるのです。」とあるとおりです。**罪人に差し伸べられた神の恵み、それが復活のメッセージです。イエスが死に打ち勝ってくださったからこそ、私たちは罪に対して死ぬことができます。罪を赦され、永遠にキリストと共に生き、この地上での人生においてもキリストに栄光を帰すことができます。今日、あなたが、神に対して罪を犯した罪人であることを認めず、その罪を悔い改めてイエスのもとに立ち返り、救いのためにイエスに信頼しておられないなら、まだ死の中におられます。この世でどんな喜びを味わっておられたとしても、それは一時的なものであり、罪人としての自分の本当の姿を見えなくしてしまいます。イエスの復活を理解することは、自分の罪と、その罪の代価を払ってくださる救世主が必要であることを認め、あなたのために死に打ち勝ってくださったイエス・キリストに信仰をもって立ち返ることです。その方はあなたが罪の赦しと新しい復活のいのちを得られるようにと、十字架であなたの罪の代価を払い、蘇られました。そのいのちの中では、罪は真に打ち破られ、創造主に栄光を帰すことが真に可能になるのです。それはすべて、神の御子が人となられたことによって可能となりました。完全に神であり、完全に人でおられるイエスは、十字架にかかり、私たちの罪のために死なれました。ですが、蘇られ、救いを求めてご自分のもとに来るすべての人にいのちを与えてくださるのです。今日、自分の罪を悔い改めて、イエスに信頼しませんか。もしイエスを知っておられるのであれば、自分がキリストと共によみがえり、罪は打ち負かされ、もはや私たちを支配する力を持たないという現実の中に生きることに、自分の人生を捧げませんか。祈りましょう。

## Romans 6:1-14 Alive in Christ

Turn in your Bible this morning to Romans 6:1-14. There really is not a better way to worship on the Sunday we remember Christ's resurrection, than by celebrating the ordinance of baptism. This simple act of being placed briefly under the water and then raised out of the water is what God has commanded us to do to all new followers of Christ until the day he returns. We have this command tied to the message of the gospel in [Matthew 28:19](#) <sup>19</sup>Go therefore and make disciples of all nations, baptizing them in the name of the Father and of the Son and of the Holy Spirit... To be a disciple of Jesus, a follower of Jesus is to submit to baptism, to this picture of the gospel. Just as Jesus submitted himself to death on the cross, and then conquered death for us by his resurrection from the dead. In salvation, we are connected for eternity with Christ's death and resurrection, and so we make that commitment public by submitting ourselves to that picture of Christ's death. We go under the water representing Christ's death and then come out of the water representing his resurrection. But the importance of baptism shown in this mode of immersion goes beyond picturing Christ's death and resurrection, and our own death and resurrection that is made possible by Christ. In our passage today in Romans 6, we see our death and resurrection because of Jesus's death and resurrection. **We are dead to our sin but alive in Christ.**

**Romans 6 first focuses on the fact that we are dead to sin with Christ.** Let's read the first 4 verses of Romans 6 where we see this truth that we are dead to sin with Christ. **6 What shall we say then? Are we to continue in sin that grace may abound? <sup>2</sup>By no means! How can we who died to sin still live in it? <sup>3</sup>Do you not know that all of us who have been baptized into Christ Jesus were baptized into his death? <sup>4</sup>We were buried therefore with him by baptism into death, in order that, just as Christ was raised from the dead by the glory of the Father, we too might walk in newness of life.** Notice how chapter 6 begins, **"What shall we say then?..."** Clearly, this is meant for us to connect it with what came before. Chapter 5 ends with a contrast between the first man Adam and the perfect man, Jesus. Adam's disobedience brought sin to all humanity, while Jesus's obedience made God's grace available to all. [Romans 5:19](#) says, **19 For as by the one man's disobedience the many were made sinners, so by the one man's obedience the many will be made righteous.** With the focus on grace from Romans 5, the apostle Paul who wrote this book asks the question that basically says, "should we then sin a lot so more grace can be extended to us?" The response is a resounding NO! **"By no means!"** And why is that response so wrong? It is because we are dead to our sin when we are with Christ. Verse 2 asks, **"how can we who died to sin still live in it?"** Our relationship with Christ is the key to how we relate to sin as it being dead within us. And notice here what words Paul uses to describe our relationship with Christ. He uses the picture of baptism. We are not just physically baptized. It pictures a spiritual reality when we go under the water that we are baptized into Christ's death. But we don't physically die, it is our sin nature that is destroyed within us. We are in fact **"dead to sin."**

If that is true, we live in a constant state of contradiction. I say that because even as those who are baptized into Christ, who follow him as our Lord and Savior, we still sin. We have a constant battle going on within ourselves of wanting to live an obedient life, but finding ourselves failing in that obedience. [Jerry Bridges in the Discipline of Grace](#) does the best job explaining this. He says it goes back to the idea that Jesus and Adam both serve as Federal Heads. This fits with the context of contrasting Adam's one disobedience and one sin with Jesus's obedience in Romans 5. To summarize what the

Bible teaches is that Adam served as our Federal Head representing humanity. When he sinned, he sinned for all of us as our representative which brought the curse of sin on all humanity. Adam's sin was imputed or put within each of us. But Jesus also acts as our representative so when we believe in him, his righteousness (his lack of sin) is imputed or put within us. Bridges points out that each of these is essentially a legal transaction. So, in Adam, we are included in the condemnation of sin and in Christ, we are all included in the legal pardon from sin. What this means is that we are no longer under the reign of sin. What this means is that our response to sin has changed. Because we do not serve sin by nature any more, when we do sin it so goes against the nature of Christ that we have been given that it becomes a burden to us "rather than a pleasure that delights us," as Bridges writes. So, its not that we don't sin, its that we hate the sin we do, because it is against our nature. And the more we grow in our understanding of who God is and what Jesus Christ did for us, the more we grow to hate our sin. 2Corinthians 3:18 says, And we all, with unveiled face, beholding the glory of the Lord, are being transformed into the same image from one degree of glory to another. For this comes from the Lord who is the Spirit. In our union with Christ, as the Holy Spirit works to make us more like Christ, our new life reflects his glory. Verse 4 shows us this connection to bringing glory to God. ... just as Christ was raised from the dead by the glory of the Father, we too might walk in newness of life

To bring God glory with our new life introduces the second fact in this passage which is that **we are alive to God in Christ**. The opposite of being dead is to be alive. And as Romans 6 continues, we find out that we not only are united in Christ's death, but also in resurrection. Let's read verses 5-11. <sup>5</sup>For if we have been united with him in a death like his, we shall certainly be united with him in a resurrection like his. <sup>6</sup>We know that our old self was crucified with him in order that the body of sin might be brought to nothing, so that we would no longer be enslaved to sin. <sup>7</sup>For one who has died has been set free from sin. <sup>8</sup>Now if we have died with Christ, we believe that we will also live with him. <sup>9</sup>We know that Christ, being raised from the dead, will never die again; death no longer has dominion over him. <sup>10</sup>For the death he died he died to sin, once for all, but the life he lives he lives to God. <sup>11</sup>So you also must consider yourselves dead to sin and alive to God in Christ Jesus. Remember that now that we are dead to sin, it no longer defines who we are. But we have a new life, a resurrected life in Christ. The description in verse 11 now defines this new life – "alive to God in Christ Jesus." To be in Christ is to be clothed in His righteousness, which I mentioned earlier. It is to have our lives now defined by that relationship. We are not just WITH him, we are IN him. But he also dwells in us through the Holy Spirit. We see this truth in Romans 8:9 You, however, are not in the flesh but in the Spirit, if in fact the Spirit of God dwells in you. Anyone who does not have the Spirit of Christ does not belong to him. The Holy Spirit, the Spirit of Christ living in us and us living in Christ, in other words our whole life wrapped up in our identity in Christ. Many people want to separate each part of their life from the other. Family is separate from work. Work is separate from family. Church is separate from family. Church is separate from work. Even hobbies and children's activities live in a separate world from other commitments. The lines don't cross! And we can worship on Sunday and keep Jesus personal without acknowledging him in the rest of our life. But there is no place for living our lives in that way in Scripture. All of our life is now defined by this oneness we share with Christ, us in him and he in us.

This is the answer to sin. Seeing our lives through the resurrection of Christ. Verses 8-9 tells us, **Now if we have died with Christ, we believe that we will also live with him.** <sup>9</sup> **We know that Christ, being raised from the dead, will never die again; death no longer has dominion over him.** Jesus only had to suffer death ONCE for all. When he rose from the dead, he will never face death again. Christ's death was real, and his resurrection was real, and we really share in that resurrection. Of course, unless Christ returns first, all of us will ourselves face physical death. But the part of us that brings eternal death is already dead – our sin nature. Because we now live in Christ's righteousness, we no longer have to fear eternity. That is why we can sing the song we sang earlier – **Christ is our Hope in both life and in death.** The problem is we want to take the part of us that is dead and resurrect it. We want that dead part of us that part that wants to rule our lives and satisfy our sinful desires to be alive again. So, instead of feeding the life we have in Christ and strengthening that life through Scripture, prayer, and the church, we neglect those things and start to feed the desires of the flesh. But to a Christian that is like raising a dead man. It is feeding something that is no longer who we are, so it brings guilt and shame even if there is temporary pleasure. The reason we continue to sin is that we don't live in the present reality that we don't have to continue to sin. We don't consider our sinful nature dead, so we continue to feed it with the things of the world described in **1 John 2:16** as **"the desires of the flesh and the desires of the eyes and pride of life..."** We must do what verse 11 tells us...**you also must consider yourselves dead to sin and alive to God in Christ Jesus.**

Having established that we are dead to sin with Christ, but alive to God in Christ, **this passage ends with describing what it means to live for God through Christ.** Let's read verses 12-14. <sup>12</sup> **Let not sin therefore reign in your mortal body, to make you obey its passions.** <sup>13</sup> **Do not present your members to sin as instruments for unrighteousness, but present yourselves to God as those who have been brought from death to life, and your members to God as instruments for righteousness.** <sup>14</sup> **For sin will have no dominion over you, since you are not under law but under grace.** This is the life of resurrection! This is the life of grace! This is the life we were created to live. If we could just get a glimpse of the glory that our life is supposed to reflect because of the new life we have in a resurrected Christ... And if we could see just how dead our sin nature really is, that we are truly free from sin's power... Then we could say no to that sin. Sin is defeated, and we are supposed to live that way. How do we live in victory over sin? We separate ourselves from it completely. We don't play with temptation. We guard what we watch, what we listen to, the things we participate in, so that we don't use our bodies to commit sin. This is what we see in the example of Job in **Job 31:1**, **"I have made a covenant with my eyes; how then could I gaze at a virgin?"** Job determined that he would not use his eyes to lust. Perhaps that is a commitment you need to make today or recommit to. Or perhaps there is another commitment that you need to make to keep yourself from certain sins. Or are there some people you need to stop spending time with. But its not just about what you stop doing. Its about what you do. You present the **members**, the parts of your body **to God as instruments for righteousness.** Anytime you stop doing something, you generally need to replace it with something else, or you go right back to what you were doing and want to stop. This idea of putting off and putting on is a basic idea in Biblical counseling, and it is how we help people change and we change ourselves. So we stop doing things that lead to sin and instead do things that produce righteousness. **Ephesians 4:22-24** describes this process as **"to put off your old self, which belongs to your former manner of life and is corrupt through deceitful**

desires, ... (Then verse 24) and to put on the new self, created after the likeness of God in true righteousness and holiness. Our bodies and our lives are supposed to be instruments of righteousness that God can use for his pleasure to bring glory to himself. What is it then that God wants from us? Simply this...seek his glory and not our own. When we do that, he will show us what righteous and good things he wants to accomplish through us. There are definitely actions that can provide the right and fertile soil for those desires to grow in our heart. Be in the Word and obey the Word. Be in the church and love the church. Be in prayer and listen to the Holy Spirit. Be loving others and sharing Christ. If we are faithful in these things that we know to be God's will, then he will lead us to his specific will for each of our lives that will best bring glory to him and good for us. In each of those ways, we will become more aware of God's grace in our lives and our need for God's grace in our lives. We will continually be confronted in our sin by the Word of God and convicted of our sin by the Holy Spirit growing in our knowledge and need for grace. We will be serving the Body of Christ and seeing that in our own effort we fail, but by God's grace we are gifted to serve. We will reach out to those around us seeking to love them and share Christ with them, but recognizing that salvation is not our work but God's which causes us to pray more and rely on his grace to use our feeble efforts for his glory. This is what happens when we really have our eyes opened to the truth that Jesus's resurrection has made this a true possibility. That as verse 14 says, **sin will have no dominion over you, since you are not under law but under grace.** God's grace extended to sinners is the message of the resurrection. Jesus conquered death so we could die to our sins. We could be forgiven for our sins, and live with him in eternity and bring him glory in this life on earth. Today if you have not recognized that you personally are a sinner who has sinned against God, and turned to Jesus in repentance for that sin and trust in him for salvation, then you are still living a dead life. Whatever joy you experience in this life is temporary at best and can deceive you as to your true identity as a sinner. To understand the resurrection of Jesus is to acknowledge your sin and your need for a savior to pay for that sin and turn in faith to Jesus Christ who conquered death for you. Who paid the price for your sin on the cross and rose again so that you could find forgiveness of sin and a new resurrected life, where sin is really defeated and bringing glory to our Creator is truly possible. And it all happened because God the Son became human. This fully God, fully man, Jesus went to a cross, died for our sin. But rose again to offer life to all who turn to him for salvation. Will you repent of your sin and trust in Jesus today? If you know Jesus, will you commit you life to living in the reality that you have been resurrected with him and sin has been defeated and no longer has power over us? Let's pray.